

第1号議案

令和5年度 事業計画・報告

特定非営利活動法人 color

1. 児童発達支援センター 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 居宅訪問型児童発達支援	児童発達支援センター くるーる
2. 多機能型事業所 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 就労継続支援 B 型	みずたま
3. 相談支援事業 特定相談支援事業 障害児相談支援事業	相談支援センター さくら
4. 日中一時支援事業	そらのいろ そらのいろ・くるーる
5. 基本相談 高梁市障害者相談支援事業 巡回支援専門員整備に係る業務委託	たかはし障害者総合相談センター レイユール 相談支援センター さくら たかはし発達障害者支援センター
6. 放課後児童健全育成事業	まーぶる
7. 学習支援塾	さいさい
8. ひきこもり支援	ひきこもりサポートセンター いろは
9. その他法人事業 自発的活動支援事業	いろいろ

1. 児童発達支援センター くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	24人
②放課後等デイサービス	月～土曜日	9:00-15:30	24人
③居宅訪問型児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	
④保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00-17:30	

(2) 各事業目標および結果

【計画・目標】	【結果・課題】
<p>① 児童発達支援</p> <p>利用目標人数(延べ)： 6,147人</p> <p>・療育での取り組みを分かりやすく保護者に伝え、成長と一緒に確認していく。</p> <p>・園や学校と連携し不安なく就園、就学することができるように支援していく。</p>	<p>利用人数:4,485人 契約人数:58人</p> <p>保護者への療育説明時、出来ていることや今後の課題になることを共有できた。また、療育後に迎えに来ることができない保護者には事業所内相談を行い、療育の説明を行った。</p> <p>就学や就園前にケア会議を行い、その場で引き継ぐ内容を伝えることができ、不安なく就園や就学に繋げた。</p>
<p>② 放課後等デイサービス</p> <p>利用目標人数(延べ)： 490人</p> <p>・個別のニーズに合わせた支援を行い、必要に応じて他事業所への移行を行っていく。</p>	<p>利用人数:420人 契約人数:11人</p> <p>家庭での課題が多く見られ、個々のニーズに合った支援に取り組んできた。保護者と連携し目標達成できている。保護者との連携が難しい家庭への支援が課題である。</p>
<p>③ 居宅訪問型児童発達支援</p> <p>利用目標人数(延べ)： 2人</p> <p>・利用できる体制を整えておく。</p> <p>・地域の対象となる児の情報共有をしていく。</p>	<p>利用人数：0人 契約人数：0人</p> <p>今年度は、利用実績はなかった。</p>
<p>④ 保育所等訪問支援</p> <p>利用目標人数(延べ)： 177人</p> <p>・園や学校と課題を共有し、同じ方向で課題達成に向けて取り組んでいく。</p>	<p>利用人数:44人 契約人数:5人</p> <p>保護者や園からの要望は少なく、利用人数は減少している。利用している児には定期的に訪問支援を行うことができた。</p> <p>訪問支援による成果を分かりやすく園や学校に伝えていきたい。</p>

(3) その他(研修・スクラム会議 等)

<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修に積極的に参加する。 ・関係機関と情報共有し、療育で取り組めることを確認し、支援に繋げていく。 ・パートスタッフに対する、研修を行うことでどのスタッフも同じような支援を提供できる体制を整えていく。 	<p>スクラム会議が年1回になったが、事業所内での個別支援会議や家庭へ訪問により聞き取りを行うなどしながら情報を共有することができた。保護者には園や学校の様子をそれまでに聞いてもらっていたが、詳しくは聞き取ることが難しかったので、療育で尋ねたいところを絞り、それを保護者の方に聞いてきていただくようにしていきたい。</p> <p>パートスタッフの研修を定期的に行い、知識を養い常勤スタッフと差がない支援を行うようにした。</p>
--	--

2. みずたま

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	13:00～19:00	10名
②放課後等デイサービス	月～土曜日	13:00～19:00	10名
③保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00～18:00	
④就労継続支援B型	月～土曜日	9:30～15:30	15名

(2) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
① 児童発達支援	
利用目標人数(延べ): 75人/年	利用人数:67人 契約人数:6人
<ul style="list-style-type: none"> ・就学後も見据えて就学までの目標を立てる ・就学に向け、本人・保護者不安を解消していく 	就学後の不安や希望を本人や保護者から聞き取り、目標を設定できた。場面設定などで、学校生活がイメージでき、小さい段階でステップアップすることによりできることが増え、本人や保護者の不安を減らすことが出来た。
②放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ): 3121人/年	利用人数:2,853人 契約人数:83人
<ul style="list-style-type: none"> ・本人や保護者への聞き取りを十分におこない、課題を整理する ・自立に向けた支援を本人・保護者にしていく 	本人の意向や特性、学校での様子を確認し、都度対応し、目標を設定することができた。
	自立に向けて今後何が必要か、いま何ができているか整理し、スキルを身につけていくところやツールを使ったり手助けしてもらったりなどの対応方法を整理することができた。不登校児が増えた時期に、本人や保護者学校とのやりとりで上手いいかないこともあり、来年度は各々の状況をしっかり把握しながらすすめていきたい。
③保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ): 202人/年	利用人数:73人 契約人数:31人
<ul style="list-style-type: none"> ・訪問の支援計画を園や学校と共有し、対応方法や目標設定を確認する 	スクラム会議で訪問の支援計画も説明し、方向性や具体的な流れなど決めていくことができた。

⑤ 就労継続支援 B 型	
利用目標人数(延べ)：1796人/年	利用人数：1,538人 契約人数：16人
・イベント以外でのカレーの販売 ・余暇の周知を関係機関以外でもおこなう	ポルカや大学など平日のカレー販売や福祉以外の地域のイベントに参加でき工賃向上につなげることができた。余暇活動は、きなり利用者以外の参加があった。今後は地域の方へも広めていきたい。

(3) その他(研修・スクラム会議 等)

・スクラム会議の基本的な回数が減るため、会議以外で園や学校の状況を確認し、支援につなげていく ・外部の研修に参加後、他のスタッフにも周知する時間作りと説明するスキルを磨く ・令和7年3月末で現建物から退去予定。高梁市より旧児童館の跡地利用について打診を受けている。検討中。	・受給者証の更新時期に相談支援専門員と一緒に聞き取りを行い、保護者から状況を確認することができた。個別に受けた研修を周知する時間はとれなかったが、zoom研修を複数回みんなで受けることができた。 ・旧児童館跡地の購入に至った。令和7年度から新設地で営業開始予定。
--	--

3. 相談支援センター さくら

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間
①特定相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
②障害児相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00

※上記以外の時間については、携帯電話で対応する。

(2) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
① 特定相談支援事業	
契約目標人数：40人(継続も含む)	契約人数：33人
成人期に求められる支援について学び、相談者(本人、家族等)からの相談を受け、適切な対応、支援等に繋げていく。	相談者(本人、家族)から現状だけでなく、これまでの生活背景聞き取ることにより、ニーズが何であるのか等を探ることができた。適切な社会資源とつなげていくために関係機関と連携をしながら進めていくことができた。
②障害児相談支援事業	
契約目標人数：220人(継続も含む)	契約人数：192人
移行期、転居時など、適切に情報共有していくことで家族や本人が安心して次の環境へ移行できるようにかかわりを持つ。	環境などに変化がある時は、他市の相談支援専門員とも連携をとりながらスムーズに移行することができるように取り組むことができた。また、学校などの移行時にも関係機関と情報共有を行うことにより、本人や家族の不安の軽減に繋がることができた。

(3) その他(研修・スクラム会議)

スクラム会議のあり方が変わったため、会議開催	定期的なモニタリングや会議時以外に園、学校、医療
------------------------	--------------------------

時だけではなく、日頃から面談や訪問等を行い、ニーズを拾い関係機関等と連携を取り課題解決に繋げていく。	機関等と情報共有を密に行うように努めた。関係機関と役割分担を行うことで本人や家族の状況を把握し、ニーズの確認、課題へ解決に繋がるよう取り組んだ。
--	--

4. そののいろ そののいろ・くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
そののいろ	月～土曜日	8:00～18:30	15名程度
そののいろ・くるーる	月～土曜日	8:00～18:30	15名程度

(2) 各事業目標（契約者数 そののいろ:100人、そののいろ・くるーる:50人）

結果（契約者数 そののいろ:101人、そののいろ・くるーる:55人）

【計画・目標】	【結果・課題】
① 放課後利用 ・療育事業所とも情報を交換し、落ち着いて過ごすことができたり、友だちと楽しく関わりながら遊ぶことができたりするように支援していく	療育事業所と情報を交換し、社会性や興味を踏まえて遊びを提供することができた。
②土曜日、長期休暇等利用 ・年齢や興味に応じて複数の活動を設定し、色々な人に利用してもらう ・個々の余暇活動の幅を広げる	コロナも収まってきたため、公共の場やイベントにたくさん出ることができた。 中高生や成人向けに公共交通機関やお金を使う練習ができるような余暇活動を提供し、好評だが、振る舞いなど事前に確認しておく必要がある。
③送迎利用 ・安全に時間通りに送迎できるように、ゆとりを持つ	時間にゆとりをもって送迎することができた。

(3) その他(研修・スクラム会議)

・遊びの研修に参加したり、保育アドバイザーがくるーるに来ている時に見学したり、話を聞きに行ったりすることで遊びのスキルを向上する。 ・利用児の年齢幅が広がることで、エリア分け等について今後、再検討が必要。	・障がい児をもつ保護者の研修などに参加できた。遊びの玩具や興味のあるキャラクターのカードゲームなど遊びの幅が狭い利用者に合わせて遊びを提供することができた。保育アドバイザーとの連携はできなかった。 ・室内の構造は見直しを実施。それでも長期休暇はエリアと職員配置等に課題があった。来年度は長期休暇時等には旧児童館の利用を検討する。
---	---

5. レイユール(たかはし発達障害者支援センター・相談支援センター さくら)

(1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
レイユール	月～金曜日	9:00～17:00

(2) 各支援目標

【計画・目標】	【結果・課題】
<p>① 保育・教育</p> <p>・各園、学校等へ定期的に訪問を行い、状況や流れを把握し、支援方法や環境の調整を行っていく。</p> <p>・福祉サービスに繋がっていない児に対しても保護者や関係機関等への聞き取りを行い、必要に応じてスクラム会議を実施し必要な支援体制を整えていく。</p>	<p>18歳未満 47名</p> <p>年2回開催される情報交換会で課題のある子どもや園に対して巡回訪問ができることの提案している。3か所の園と3か所の学童へ訪問をおこなった。支援方法や環境設定、スケジュールの組み立て等、先生方と一緒に検討し対応して行くことができた。</p>
<p>②就労・成人期</p> <p>・相談者(本人、家族等)との関係作りを丁寧に対応していき、必要な情報提供、関係機関へのつなぎを行っていく。</p>	<p>18歳以上 36名</p> <p>相談者(本人、関係者)のニーズに合わせ、就労、服サービス、障害年金など必要な情報提供を行うことができた。ハローワーク等の関係機関と連携し、就労の相談を受け、就労後も定期的に面談等でフォローをしていくこともできた。</p>
<p>③その他</p> <p>・総合相談センターのチラシの修正(役割の明確化)を行い、周知に繋げていく。</p> <p>・自立支援協議会(児童部会・就労部会・地域生活支援部会)への参加。</p>	<p>・レイユールのチラシの修正等を行っていない。また巡回訪問の案内も配布できなかったため、来年度は配布できるように取り組んでいく。</p> <p>・自立支援協議会へは積極的に参画している。また、協議会の活動内容等について法人内のスタッフ等にも共有している。</p>

(3) その他(センター内会議・関係機関連携 等)

<p>・総合相談センターの役割を高梁市と再確認していく。(地域生活支援拠点事業)</p> <p>・虐待防止センターとの情報の共有の方法の検討。</p>	<p>・今後、地域生活支援拠点事業や基幹相談支援センターの設置に向けて取り組んでいく予定。</p> <p>・虐待防止センターとの情報の共有方法については検討することができなかった。</p>
---	--

6. まーぶる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
まーぶる	月～土曜日	8:00～18:30	8名程度

(2) 各事業目標 契約人数：5名（夏季休暇中のみ 8名）

【計画・目標】	【結果・課題】
	契約人数 4人
・日々、行事や出来事などを本人や保護者から聞き取り、情緒の安定をはかる。 ・少人数を活かした活動の設定を行う。	・夏季休暇は4名の登録があったが、4月～9月にかけて、利用児は1名。また冬季休暇でも1名の利用のみで、長期休暇以外の平日利用がなかったため、12月末で休業となった。

(3) その他（研修・関係機関連携 等）

・スキルアップ研修や遊びの研修に参加する。	・定期的に行われる研修には積極的に参加している。
-----------------------	--------------------------

7. 学習支援塾 さいさい

【計画・目標】	【結果・課題】
登録人数 10人	登録人数 13人
・子どもたちが学習することに対する不安や拒否を軽減することができるように取り組む。	・そらのいろいろの職員をさいさいと兼務で開所。子どもたちは安心して学習に臨むことができた。ニーズは高く、希望人数は増加傾向にある。

8. ひきこもりサポートセンター いろは

【計画・目標】	【結果・課題】
相談人数 20人/日（延べ 240人/年）	相談人数 19人（延べ 222件）
・個別ケースについては、ご本人のペースで社会参加につながるよう粘り強く支援を継続する。 ・高梁市内のひきこもりケースの実態を行政とともに把握していき必要な支援を検討する。	個別のケースについては、健康づくり課や福祉課等から情報提供があったケースに関わってきている。保健師と一緒に訪問を行い、社会とのつながることができるように継続して支援を行っている。 高梁市の体制づくりは行われなかったため、来年度以降継続した課題とする。

9.その他 法人事業

(1)各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
①親子ラリー	
利用目標人数 150人	実績 46人
市内企業にも参画してもらい、color のことを知ってもらおうきっかけづくりとする。	まちづくり支援事業の助成を一部受けて開催。市内を歩くだけでなく、くるーに帰ってからの待機時間についてもゲームコーナーやワークショップ等を設け、子どもたちが過ごせるようにした。地域企業のサポートもあり、良い交流の場となった。
②夏祭り	
利用目標人数 350人	実績 203人
地域の方々との交流の機会を深めることにより、地域の方から color を広めてもらうことができるようにする。	まちづくり支援事業の助成を一部受けて開催。中高生ボランティアと一般ボランティアの参加があり、イベント内のワークショップでは、より積極的な交流の場を設けることができた。
③Winter Festival	
利用目標人数 280人	実績 約250人
さまざまな年齢層の方が参加してもらえるような企画を行い、color の活動理解が深まるようにする。	毎回、イベント告知はチラシの配布と SNS で行っているが、参加して下さった方の受付調査では、SNS で情報を得た方も多く見られ、SNS の効果を感じた。
④一時預かり事業	
利用目標人数(延べ) 250人	実績 119人 契約人数 17人
高梁市が「子育て応援チケット」の配布を検討している。高梁市の行うベビーファースト宣言に協力していく。	子育てチケット(無料利用)は年齢制限と利用時間の観点から、利用者は3名のみ留まった。高梁市の期待とは外れた様子であり今後内容の検討が必要である。昨年同様、利用者の多くはリピートの家庭が多い。
⑥ スタッフ研修(内部)(1~2回/月)	
・専門職研修 ・個別支援に関する研修	・定期的実施しているスタッフ研修に加えて、パートスタッフが参加できやすいように平日の日中に研修を開催している。支援に必要な知識習得が不足していることが露見したため、今後も継続して実施していく。
⑧外部研修・講習会 ・自閉症研修(1回/2カ月) 川崎医療福祉大学 重松孝治先生へ依頼 ・外部講師研修	・自閉症研修(重松先生)は、目的を明確にして取組内容の見直しが必要である。 ・TTAP 研修(小田桐先生)はアセスメントの取り方を具体的に学ぶことができた。 ・ひきこもり支援研修(総社社協)では、総社の取組を行政関係者等が知る機会となった。 ・不登校支援研修(岡山高等学院)では、不登校後の児童の進路選択の一つを学ぶことができた。

(2) その他

【計画・目標】	【結果・課題】
<p>自発的活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ペアトレ及びステップアップ講座・視察研修 就労先・就労移行支援等の視察研修を行う・虐待に関する研修・啓発事業（自立支援協議会とも連携）	<ul style="list-style-type: none">・ペアトレは昨年度同様に行い、ステップアップ講座は、思春期向けの内容に変更を行った。ペアトレは、市外の方 2 名の参加。市内の方の参加がなかった。次年度、募集等、保護者への声掛けの仕方やチラシの内容等検討していく。・国立吉備高原職業リハビリセンターをぶどうの会の会員、color の職員の7名で視察した。・年度初め、年明けの全体研修内で虐待研修を行い虐待防止に努めている。・自立支援協議会と連携し、各部会や障害者週間等での啓発活動等を行った。
<p>親の会支援（ぶどうの会）</p> <p>月に1回程度保護者が集まれる場を設定し、日常の困りごと、子どものことなどを話せるようにする。家族が主体的に活動できるように支援する。</p>	<p>月1回第2土曜日にポルカ内にある交流センターの部屋を使用し座談会を行っている。会員数9名の内、6,7人は参加され、日頃のことや色々な情報交換等を行っている。近年、会員数が減少していることもあり、会員の募集を検討。ぶどうの会の活動内容が分かるようなパンフレットを作成した。次年度、各機関等に配布していく予定。</p>